

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32660

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2022

課題番号：18KK0031

研究課題名（和文）戦時期の日本ならびに上海に滞在したユダヤ難民のその後に関する越境的かつ多角的な研究

研究課題名（英文）Tracing the footsteps of the Jewish refugees who sojourned in wartime Japan and Shanghai: a transboundary and multilateral research

研究代表者

菅野 賢治 (Kanno, Kenji)

東京理科大学・教養教育研究院神楽坂キャンパス教養部・教授

研究者番号：70262061

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

研究成果の概要（和文）：研究計画に掲げた目的は概ね達成されたと自己評価できる。五年にわたる期間内に発表した成果として、研究代表者、研究分担者による個々の学術論文や研究発表 以外に、(1) 中間報告書「ユダヤ難民たちのリストと実数の特定」、(2) 海外の研究協力者アーノルド・ゼイブルによる『カフェ・シェヘラザード』の邦訳、(3) 映像資料「海でなくてどこに」、(4) 映像資料「喪失の記憶、物語の循環」、(5) 映像資料「アーノルド・ゼイブル、湾の抱擁」、(6) 菅野賢治『「命のヴィザ」言説の虚構』があり、とりわけ日本通過ヴィザを受給した人々の「その後」について、中間報告書に「ユダヤ難民のリスト」を収録できたことは有意義であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1940年夏、在リトアニア日本領事代理、杉原千畝（1900-86）がユダヤ難民たちに発給した日本通過ヴィザ（いわゆる「命のヴィザ」）をめぐる主題は、従来、杉原夫人・幸子による評伝、ならびに国内外の個々の著述に委ねられ、ヴィザを受給した本人たちの「その後」に関する学術的かつ国際的な研究は不在のままであった。本研究は、この欠落を補うべく、戦時期のリトアニア、日本、上海を経由したユダヤ難民たちの足跡を、一次資料の踏査をつうじて実証的に辿り、戦後、彼らがさまざまな言語で残した証言（活字ならびに映像）を可能な限り広く収集して、後世に伝えようとするものである。

研究成果の概要（英文）：It can be evaluated that the objectives set forth in the research plan have generally been achieved. In addition to individual academic papers and research presentations by the principal investigator and co-investigators, the results published during the five-year period include; (1) the interim report "List of Jewish Refugees and Identification of Real Numbers", (2) Japanese translation of "Cafe Scheherazade" by the overseas research collaborator Arnold Zable, (3) Video material "Where else is it at sea?", (4) Video material "Memory of loss, Circulation of story", (5) Video material "Arnold Zable, Embrace of the Harbor" (6) Kenji Kanno, "The Fiction of the Discourse of 'Visas for Life'". Concerning the aftermath of the beneficiaries of Japanese visas, it was particularly meaningful that their list could be integrated in the interim report.

研究分野：ユダヤ研究

キーワード：ユダヤ難民 リトアニア 戦時期日本 上海 オーストラリア

## 1. 研究開始当初の背景

1940年夏、在リトアニア日本領事代理、杉原千畝(1900-86)がユダヤ難民たちに発給した日本通過ヴィザ(いわゆる「命のヴィザ」)をめぐる主題は、従来、杉原夫人・幸子による評伝、ならびに国内外におけるフリーランスの書き手たちの個々の著述に委ねられ、ヴィザを受給した本人たちの「その後」に関する学術的かつ国際的な研究は不在のままであった。本研究は、この欠落を補うべく、戦時期の日本と上海を経由して主に南北アメリカとオセアニアに散っていったユダヤ難民の足跡を実証的に辿り、戦後、彼らがさまざまな言語で残した証言(活字ならびに映像)を可能な限り広く収集して、後世に伝える重要性の認識を背景として出発した。

本研究開始前の2016年上半期、所属研究機関(東京理科大学)の在外研究制度によりメルボルン大学に滞在した研究代表者は、現地で、かつて日本と上海を経由してオーストラリアに定住した元ユダヤ難民の姉弟 マリア・カム(2019年、98歳で他界) マーセル・ウェイランド(現在96歳) と出会い、大きな驚きと感動を覚えるとともに、彼らの証言を映像資料として後世に残す必要を痛感していた。帰国後、その実現のために申請したJSPS 科研費・基盤研究(C)(一般)が採択され(課題番号17K02041、2017~2020年度)研究成果報告用のビデオ(「海でなくて どこに」、日英二語、12分)を専用インターネットサイト上で公開した。このオーストラリアのある一家族に絞ったケース・スタディーを過去1年半にわたって行なうなかで、さまざまな人脈形成と新たな資料の発見があり、また国内、国外を問わず、実にさまざまな方面から研究協力の申し出と調査対象拡大の要請が寄せられたため、上記の基盤研究(C)をいわば核のように包み込み、海外の研究協力者として本主題に明るいオーストラリアの現代作家、アーノルド・ゼイブルの参加も得て、射程を北米、南米、イスラエル国等に押し広げる国際共同研究の計画を構想するにいたったものである。

研究の遂行に際しては、地域研究、国際協力、歴史、文学、言語、思想といった人文科学の諸領域を果敢に越境し、「難民・移民研究」という新しい学術領域の構築に資することを念頭に置き、以下の三つの問いを研究動機の核心に据えた。

(ア) ユダヤ難民たちにとって、最終的に「日本」そして「上海」とは何であったか？

(イ) 同一の歴史事象をめぐる、日本国内と海外で別々に行われてきた調査・研究を総合的な共同作業として再構築するために有効なノウハウは何か？

(ウ) 1930~40年代のユダヤ難民という個別的な現象を、今日の世界ならびに日本にとっても最大のトピックとなった「難民・移民」の主題に有効につなげていく方途は何か？

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、戦時期の日本と上海を経て世界に散っていったユダヤ難民たちの足取りを史資料によって裏付け、戦後、彼らが多言語(英語、ドイツ語、イディッシュ語、ポーランド語、スペイン語、フランス語、現代ヘブライ語など)で残した証言を可能な限り広く収集して後世の参照に供することに置かれた。

## 3. 研究の方法

研究の方法としては、当初、以下の7点を想定していた。

(1) 1940年夏、リトアニアで日本通過ヴィザを受給した人々の名が記された「カウナス・リスト」を起点とし、個々のヴィザ保持者(とその同伴者)の戦後の定住先を終点とみなして、そのあいだを可能な限り、資料の裏付けを伴う実線で結ぶ(それにより、いわゆる「杉原サヴァイヴァー」たちの実数とその動向を実証的に把握する)。

(2) ユダヤ難民の集団を、(イ)日本を経験した人々(推定5千人)(ロ)上海を経験した人々(推定2万人)(ハ)その双方を経験した人々(推定千人強)に分類し、そのそれぞれに関する多言語かつ網羅的な文献目録を作成する。

(3) 上記(ハ)のカテゴリーを特に重視しながら、テーマ別(敦賀到着、神戸滞在、日本人の態度、上海移動、上海の日本人社会、日米開戦時の記憶、その他)の証言集を作成する(ビデオ証言からの書き起こしを含む)。

(4) 神戸のユダヤ難民たちを積極的に支援したロシア系ユダヤ人組織 Jew Com Kobe に関する基礎的研究。

(5) 上海「無国籍避難民指定居住区」に関する研究、ならびに實吉敏郎日誌と元難民たちの証言との照合。

(6) 日本・上海経験者たちの証言をめぐるテーマ分析研究(キーワード:「難民(refugee)」「流謫(exile)」「土地の簋奪(dispossession of land)」「歓待(hospitality)」)。

(7) 調査・研究成果の日英二語による一般公開(冊子体の印刷物、国内外での学会発表のみならず、図像・映像を多用した専用ホームページをつつじて)。

加えて、採択後に連絡が取れた国内外の研究者や文化機関との連携により、

(8) 世界各国から同主題に関わる10名ほどの研究者を招聘して、東京で国際シンポジウムを開催することが研究方法の新たな要素として浮上し、実際、2020年5月に、東京理科大学と

ゲーテ・インスティテュート東京を会場とする一大イベントも企画された。

#### 4. 研究成果

上記3「研究の方法」の項目に即し、本研究課題の成果を以下のようにまとめることができる。

(1) 1940年夏、リトアニアで日本通過ヴィザを受給した人々に関する定量的研究については、2019年9月、『戦時期の日本ならびに上海に滞在したユダヤ難民のその後に関する越境的かつ多角的研究 研究成果報告書 中間報告』に収録した「第二次大戦期、日本に到来したユダヤ難民のリスト」をもって、目指したとおりの研究成果を達成することができた。本中間報告書は、国立国会図書館に寄贈されたほか、個人名などを伏した形で専用ウェブサイトでも公開されており、今後、本主題に関わる世界中の研究者たちにより、有用な実証データとして活用されることが見込まれる。

なお、このヴィザ受給者リストから読み取ることのできる難民たちのリトアニア脱出の動機について、2021年7月、単著『「命のヴィザ」言説の虚構 リトアニアのユダヤ難民に何があったのか?』(共和国)を上梓した。

(2) 元難民たちが残した文献については、とりわけ2000年ころから、短い新聞・雑誌記事などを合わせて膨大な量に及んでいることが判明したため、当面、1990年代までに期間を限定して該当文献を網羅することにした。その成果は、2023年3月、『1939~41年リトアニアのユダヤ難民に関する基礎資料 研究成果報告書 最終報告』にまとめ、(1)に記した中間報告と同様、国立国会図書館に寄贈した。戦中の1944年から1990年代にかけて、元難民たちがイディッシュ語、現代ヘブライ語、英語で残した回想に加え、1967年、モスクワ滞在中の杉原千畝が残したロシア語の覚書も合わせて収録した本最終報告書は、今後、同主題を扱う上で、欠かすことのできない基礎資料を構成することであろう。なお、この最終報告書ならびに上記の単著『「命のヴィザ」言説の虚構』をもとに、現在、『「命のヴィザ」の考古学』と題する二冊目の単著の刊行を予定している(完成原稿を出版社に入稿済み)。

(3) の日本滞在者たちによるテーマ別証言集についても、(2)と同様、世界各地(アメリカ、オーストラリア、イスラエル国)で収録された映像資料が、公開されているものだけでも膨大な量に及んでいることが判明したため、網羅的なコーパスの構築にはいたらず、もっぱら、上記(1)(2)に掲げた報告書や単著、ならびに成果報告用の映像資料(後述)のなかで、適宜、元・難民たちの証言映像の紹介に努めた。

ただし、本研究計画の立案の時点では明確に意識されていなかった点として、「オーラル・ヒストリー」への手放しの依拠には大きな危険性がともなうことが徐々に認識されるようになった。1940年夏、リトアニアのユダヤ難民たちが、「今すぐ、ここを出なければならぬ」と感じた、その時、その場の動機(「ソヴィエト体制に取り込まれてはいけない」と、50年の歳月を経て、1990年代に当時を振り返る際の感慨(「あれはナチスの絶滅政策を逃れるための逃避行であった」とのあいだの齟齬やズレが、「オーラル・ヒストリー」によって大きく助長される可能性があることが、少しずつ判明してきたのである。

本研究課題の枠内では解決にいたらなかった問題であるが、今後、一次資料と証言映像とのあいだの乖離を、歴史研究の場でどう扱っていくべきか、考察を深めていく必要がある。

(4) の Jew Com Kobe に関する実証研究については、同組織を率いたアナトリー・ポネヴェイスキーという白系ロシア・ユダヤ人(戦後、アメリカに移住)に関する資料調査が期待どおりの成果を収めることができず、ほぼ手つかずのまま、継続課題として残されることとなった。当初、ポネヴェイスキーの末裔をアメリカに赴いて探し当てよう、と考えたが、その現地調査は、新型コロナ・ウィルスによる渡航自粛、入国制限により、残念ながら不可能のまま研究期間の終了を迎えてしまった。

(5) の上海「無国籍避難民指定居住区」に関する研究、ならびに實吉敏郎日誌と元難民たちの証言との照合については、一連の論文、国内外での学会発表、ならびにアメリカで刊行された共著への参加をもって、大きな成果を上げることができた。とくに實吉敏郎・海軍大佐の末裔のもとに保存されていた第一級の資料群(防衛研究所に収蔵済み)は、今後、戦時期上海のユダヤ居留地に関する研究に新たな展開をもたらすことは疑いなく、本研究課題は、その端緒となり得た、と考える。

(6) 「難民」「流謫」「土地の篡奪」「歓待」をキーワードとするテーマ分析研究については、とりわけ本研究課題の海外の研究協力者、アーノルド・ゼイブルの作品を日本に知らしめ(『カフェ・シェヘラザード』、2020年8月、共和国より刊)その刊行記念イベント(2020年10月31日、オーストラリアと日本をZoomでつないで一般公開)ならびに映像作家・大澤未来の研究協力のもとで制作したゼイブルのインタヴュー映像「湾の抱擁」(目下、公開方法について検討中)などをつうじて、一定程度、目的を達することができたと考えられる。

ただ、本研究課題の遂行途上でさえ、ウクライナ、南スーダンなどでさらなる難民の大量発生という事態に直面し、戦時期の日本と上海におけるユダヤ難民という主題を、そうした現代の難民のテーマに有機的に関連づけて論じていく道筋が明瞭になった、とはとても言えない状況にある。「難民」の主題をめぐって、過去の事例を仔細に振り返ろうとする挙そのものが、ややもすれば、目の前の事例に対する遮蔽幕になりはしないか、という危惧と表裏一体の関係にあることも浮き彫りとなった、と言えよう。

戦時期ユダヤ難民に関する言説を、現在の世界にいかに共鳴させるか、という点も、今後の重

要な課題として残されることとなった。

(7) 調査・研究成果の日英二語による一般公開については、映像作家・大澤未来による「海でなくどこに」(当初 61 分の映像資料として完成したものを、72 分の映画として再編集)の公開や、日英二語使用の専用インターネットサイト(<https://marylka-project.com/>)の運営をつうじて、十全に成果を上げることができた。映画の公開は、いまだ限定的であるが(神戸、東京で一度ずつ) 今後、より広い視聴者に機会を開いていく予定である。また、専用インターネットサイトは、本研究課題の期間終了後も、別の研究課題の成果公開の場として引き継ぎ、有効に活用していくつもりである。

(8) の国際シンポジウムについては、きわめて残念ながら、新型コロナ・ウィルスの感染拡大により、中止を余儀なくされてしまった。それに代わるものとして、ウェブサイトを活用した動画による仮想シンポジウムを企画したが、これには国外の研究者たちの積極的な参加を得ることができず、期待された成果を収めることができなかった。

総じて、コロナ禍は、この種の国際的な研究課題に大きな障害となったことは否めないが、翻って、そうした困難な状況下で、当初の研究計画をいかに遂行していくか、苦慮と工夫を重ねたことが、次なる研究計画の立案に向けて、有効な財産となった面もある、と考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 1
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (5) 1940年2～5月	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京理科大学教養教育研究院紀要	6. 最初と最後の頁 194-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 37
2. 論文標題 ユダヤ文学から移民・難民文学へアーノルド・ゼイブル『カフェ・シェヘラザード』の射程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南半球評論	6. 最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 54
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (4) 幻の映画「祖国を追はれて」をめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要 (教養編)	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村木綿	4. 巻 7
2. 論文標題 第二次世界大戦前のクラクフのユダヤ人社会 - ガリツィア・ユダヤ博物館の巡回展によせて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋外国語大学リベラルアーツセンターArtes MUNDI	6. 最初と最後の頁 92-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 124
2. 論文標題 『関門日日新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来ー1938年11月～1940年8月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口県地方史研究	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 11
2. 論文標題 上海無国籍避難民指定居住区の設置過程ー實吉敏郎海軍大佐の未公開文書をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 12-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 53
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (3) 1939年9月～1940年2月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要 (教養編)	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 10
2. 論文標題 日本軍政下の上海にユダヤ絶滅計画は存在したか (続) 實吉敏郎・海軍大佐の未公開文書より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 6-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 24
2. 論文標題 JDC資料に見る戦時期日本のユダヤ難民救援活動 - 端緒の時期：1939年12月～1940年6月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ナマール	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yakov Zinberg, Kenji Kanno	4. 巻 18
2. 論文標題 Towards Positive Historiography of Japan's Jewish Policies in Wartime Shanghai: Two Samples of Primary Sources Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国土館大学21世紀アジア学会『21世紀アジア学研究』 / Bulletin of Asian Studies, 21st Century Asian Studies Association	6. 最初と最後の頁 61-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 菅野賢治	4. 巻 52
2. 論文標題 『大陸新報』に見る戦時期上海のユダヤ社会 (2) 1939年5～8月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要 (教養編)	6. 最初と最後の頁 257-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yakov Zinberg	4. 巻 2018
2. 論文標題 THOSE WITHOUT SUGIHARA VISAS Sugihara Research Materials on Genocide in Lithuania February 6, 2019 UNIVERSITY OF TOKYO Meeting with Ruta Vanagaite and Efraim Zuroff	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国土館大学アジア・日本研究センター ワーキングペーパー2018	6. 最初と最後の頁 3-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yakov Zinberg
2. 発表標題 Forgotten Jewish World War I Transit through Japan: Similarities and Differences Compared to World War
3. 学会等名 Going Into Nowhere (Webシンポジウム・サイト) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 『関門日日新聞』に見る戦時期日本へのユダヤ難民到来 一九三八年十一月～一九四〇年八月
3. 学会等名 第133回山口県地方史研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 アーノルド・ゼイブル『カフェ・シェヘラザード』の日本語訳をめぐって
3. 学会等名 オーストラリア・ニュージーランド文学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 イメージとリアリティ: 「命のヴィサ」その<史実>と<通説>の乖離
3. 学会等名 駒澤大学GMSラボラトリ特別研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 菅野賢治、大澤未来
2. 発表標題 「マリルカ・プロジェクト」講演会
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会2012年度春季研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 「上海無国籍避難民指定居住区」の設置の反響 實吉敏郎海軍大佐の未発表文書をもとに
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会、第十三回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 How many Jewish refugees reached Japan in 1940-41? --- a preliminary study
3. 学会等名 Going into Nowhere? ---A Jewish Transit Migration and East Asia During WWII (Web Symposium)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yakov Zinberg
2. 発表標題 Forgotten Jewish World War I Transit through Japan: Similarities and Differences Compared to World War II
3. 学会等名 Going into Nowhere? ---A Jewish Transit Migration and East Asia During WWII (Web Symposium)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅野賢治
2. 発表標題 上海無国籍避難民指定居住区（「上海ゲットー」）の設置過程 實吉敏郎海軍大佐の未発表文書をもとに
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会、第十二回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 Perspectives for an integral and multinational study on Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai
3. 学会等名 International Symposium "Jewish Refugees in Shanghai: Research and Historical Memory Sharing" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 Invitation to Marylka Project: an international historical and artistic project on Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai
3. 学会等名 Shanghai Jewish Refugees Museum, Special Lecture (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kanno
2. 発表標題 The Actual number of Jewish refugees in wartime Japan
3. 学会等名 公開研究会 Open Seminar 「戦時期の日本と上海におけるユダヤ難民の多様性」 Diversity of Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 菅野 賢治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 648
3. 書名 「命のヴィザ」言説の虚構	

1. 著者名 アーノルド・ゼイブル、菅野賢治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 320
3. 書名 カフェ・シェヘラザード	

1. 著者名 菅野賢治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 菅野賢治	5. 総ページ数 223
3. 書名 戦時期の日本ならびに上海に滞在したユダヤ難民のその後に関する越境的かつ多角的な研究	

1. 著者名 Xu Xin, Christian W. Spang, Kenji Kanno, Steve Hochstadt, Rachel E. Meller, Sara Halpern, Fred A. Lazin, Lee M. Roberts, Yun Xia, Kevin Ostoyich	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 303
3. 書名 The History of the Shanghai Jews: New Pathways of Research	

1. 著者名 菅野賢治、保井啓志、飯郷友康、西村木綿、アンナ・プガエワ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 菅野賢治	5. 総ページ数 533
3. 書名 戦時期の日本ならびに上海に滞在したユダヤ難民のその後に関する越境的かつ多角的な研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Going Into Nowhere (予定されていた国際シンポジウムに代わるWebシンポジウム)  <a href="https://www.goingintonowhere.com/">https://www.goingintonowhere.com/</a>          マリルカ・プロジェクト 戦時期日本、ユダヤ難民の物語  <a href="https://marylka-project.com/">https://marylka-project.com/</a>          Going into Nowhere?  <a href="https://www.goingintonowhere.com/home-en">https://www.goingintonowhere.com/home-en</a>          Marylka Project 戦時期日本、ユダヤ難民の物語  <a href="https://marylka-project.com/">https://marylka-project.com/</a>          マリルカ・プロジェクト  <a href="https://marylka-project.amebaownd.com/">https://marylka-project.amebaownd.com/</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ZINBERG YAKOV  (Zinberg Yakov)  (50348885)	国士舘大学・研究所・研究員    (32616)	
研究分担者	佐藤 憲一  (Sato Kenichi)  (80548355)	東京理科大学・教養教育研究院野田キャンパス教養部・教授    (32660)	
研究分担者	三添 篤郎  (Misoe Atsuro)  (40734182)	流通経済大学・経済学部・准教授    (32102)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 木綿 (西村木綿)  (Nishimura Yuu)  (30761035)	名古屋外国語大学・世界共生学部・講師    (33925)	
研究分担者	A B u g a e v a  (Bugaeva Anna)  (40550075)	東京理科大学・教養教育研究院神楽坂キャンパス教養部・准教授    (32660)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ゼイブル アーノルド  (Zable Arnold)		オーストラリア在住
研究協力者	大澤 未来  (Osawa Mirai)		映像作家
研究協力者	宮森 敬子  (Miyamori Keiko)		アーティスト、ウェブデザイナー

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Going into Nowhere? ---A Jewish Transit Migration and East Asia During WWII (Web Symposium)	開催年 2020年～2021年
国際研究集会 公開研究会 Open Seminar 「戦時期の日本と上海におけるユダヤ難民の多様性」 Diversity of Jewish refugees in wartime Japan and Shanghai	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 リトアニアのユダヤ人問題: 国論を二分した問題の書『同胞たち』の著者とナチ追及の専門家による講演会	開催年 2019年～2019年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------